

松野太郎博士が「世界気象機関 IMO 賞」を受賞 ～日本人で初めての受賞～

世界気象機関（本部：スイス・ジュネーブ）^{*1}は、6月18日（金）、松野太郎博士（独立行政法人 海洋研究開発機構 IPCC 貢献地球環境予測プロジェクト 特任上席研究員、東京大学名誉教授、北海道大学名誉教授）に、「世界気象機関 IMO 賞^{*2}」を授与することを決定しました。松野博士の受賞は日本人で初めてとなります。この受賞は、世界気象機関本部で開催された執行理事会の決定によるものです。

「世界気象機関 IMO 賞」は、世界気象機関における最高の賞であり、気象学、気候学、水文学やそれに関連する分野の進展、並びにそれらの国際的な活動の推進において多大な貢献を成した科学者に贈られます。松野博士の受賞は、昭和31（1956）年の第1回から数えて57人目の受賞となります^{*3}。

松野博士は、特に大気力学の分野における研究の発展や、日本における気候研究の推進、さらに「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」や世界気象機関を含む数多くの国際的な活動に貢献されてきました。今回の受賞は、これらの功績が評価されたものです（別紙参照）。

^{*1} 世界気象機関は、世界の気象事業の調和的発展を目標とした国際計画の推進・調整を行うため、昭和25（1950）年に世界気象機関条約に基づいて設立され、翌昭和26（1951）年より国際連合の専門機関の一つとして活動しています。平成22（2010）年3月31日現在、183か国と6領域が構成員として加盟しています（日本は昭和28（1953）年に加盟）。

^{*2} IMOは「国際気象機関」の略で、世界気象機関の前身にあたります。

^{*3} 基本的には毎年1人。但し、昭和48（1973）年、昭和58（1983）年は2人同時に受賞。

問い合わせ先：
総務部企画課国際室（直通 03-3211-4966）